

山口東京理科大学公立化調査検討  
特別委員会記録

平成27年4月9日

【開催日】 平成27年4月9日

【開催場所】 第一委員会室

【開会・散会時間】 午後3時～午後4時57分

【出席委員】

委員長	伊藤 實	副委員長	笹木 慶之
委員	石田 清廉	委員	大井 淳一朗
委員	河野 朋子	委員	長谷川 知司
委員	中村 博行	委員	山田 伸幸
委員	吉永 美子		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

議長	尾山 信義	副議長	三浦 英統
傍聴議員	岡山 明		

【事務局出席者】

事務局長	古川 博三	主査兼議事係長	田尾 忠久
------	-------	---------	-------

【審査内容】

1 今後の課題について

---

午後3時開会

---

伊藤実委員長 それでは定刻になりましたので山口東京理科大学公立化調査検討特別委員会を開催します。本日は報道関係2社が傍聴ということで入室をさせていただきますので御了解を願いたいと思います。それでは早速審査に入りますが、本日の委員会までにそれぞれの委員のほうに今後の検討課題につ

いてということで、事前にそのようなことがあればということで、お願いをしておりました。そうした中、長谷川委員のほうから2回にわたってありましたので、まずそのことから進めたいと思います。その後それぞれの委員からもしあればまたそれを出していただきたいというふうに思います。まずこの長谷川委員からは、特別委員会の設置の目的ということ、そしてこの委員会がどこまでを検討し、どの時点で会の目的を達成したと判断するのか。3点目でいつまでに会の役目をなし、解散するのか、その目標時期という質問と、あとは将来にわたる財務状況ということで、負の遺産とならないことの確認。将来の人口予測と入学者数予測。薬学部を含めた財政予測。施設や設備の更新等を含むということ。それと山陽小野田市民の自慢できる大学とするにはという質問というか、それが今、出されております。で、今の最初の分なんです、委員会の設置目的につきましては、これは議運の委員長からもありましたし、本会議で副議長の提案理由のほうでもあったかと思いますが、もう一度確認という意味で申し上げますと、「議会として大学の公立化、薬学部の新設に伴う本市への影響等を調査し、公立化の妥当性を検討する必要がある」ということで設置をされたということでもあります。それと会の目的を達成したとする判断ということですが、それは今から見るですね、いろいろと案件事項等があると思います。で、それぞれについて終わった時点で終了すると思います。それと一応ですね、今の判断材料の中では、一応今、執行部のほうからは6月もしくは9月までに大学の定款をですね、議決をするというようなことになると思います。それで定款を否決した場合には、その時点で目的が達成されるということになると思いますし、可決をした場合は開学に至る関連議案の議決までというふうになると考えてます。それと3点目のいつまでに会の役目をなし、解散するのかという目標時期につきましては、これも全員協議会で議運の大井委員長が答弁されたように公立化に向けて議会議決を必要とする議案の審査。そして開学は平成28年4月をめどにしているのでそれまでというふうになろうかというふうに思います。今のところまでは長谷川委員のほうよろしいですか。

長谷川知司委員 1番と3番は今言われたとおりで私も理解しております。ただ大学の定款については当然だと思いますが、開学に係る関連議案というのがですね、

ちょっと曖昧なんですね。それをどう捉えるか、またどこまでをするのかというのは、ちょっとこの会ですべきか、しない、そこまで決めるべきか、決めないべきかというのは皆さんで判断していただきたいと思います。

伊藤實委員長 そうですね。はい、了解しました。それでは今の3点につきましてはよろしいですか。

河野朋子委員 今回各委員に宿題というか、検討課題を出されて、私ちょっと今回出さなかったんですけど、というのも、やはり今、長谷川委員から出されました3点。それがかなりスタートとしては大前提として大きい問題だと思ったわけです。と言いますのもやはり、委員長、副委員長を互選として出されましたけれども、代表質問などでやはりそういった推進というような意向も全面的に出されておりますので、いかにも公立化ありきからスタートするんじゃないかという懸念が一部から出ているというのは皆さん御承知と思いますが、そういった意味もあってスタートをある程度、ここでこういったことをある程度皆で共通認識するという意味で、長谷川委員が質問されたから委員長が答えるというんじゃなくて、むしろ委員会の中でしっかりその辺りのことを協議した上で一致するということが必要かなと思ったので、私は今回1回目の委員会は具体的な検討事項をそれぞれが出して進めていくというよりはむしろこの部分を大事にしていきたいという思いで、あえて課題を出さなかったんですけど、今の部分は委員が質問して委員長が答えるというよりはむしろ委員からもうちょっとこうその辺りを深めてというか、疑問があったりとか、その辺少ししていただいたほうが納得がいてスタートができるかなという思いで、ちょっと今のところについては少し時間をとっていただきたいというふうには思いました。以上です。

伊藤實委員長 今の委員会につきましては、これは本会議のほうで全員賛成でされたと思いますので賛成されたということは十分理解をされて設置をされたというふうには理解をしております。だから今は実際に長谷川委員のほうからの質疑に対してはこれはもう議事録にも載ってますようにそのとおりを申しただけで、これをまた深めるという理由が理解できないわけですね。だからこれは全員賛成され

たでしょう。事務局、全員賛成よね、設置は。

古川議会事務局長 これは異議なしです。

伊藤實委員長 ですよ。

河野朋子委員 目的というか、出された委員会設置については賛成はしたわけですが、その後いろんなことが決まって、そして改めて委員のメンバーも決まってスタートするわけですから、そこを大事にしていきたいという意味で、さらりと答えられましたけど、その辺りを皆が共通認識してるということを再確認していただきたいという念押しです。

伊藤實委員長 要するにこれは設置の目的等の質問というか、一応長谷川委員からの確認事項なんで、一応これはもう承認されてます。で、今、河野委員が言われるように今後ね、どういうふうなところをしないといけないかというのは、それぞれ出してくれというふうに要望をしてたわけですが、それは後ほどまたそれぞれ意見を出していただきたいと思いますので、そこはそれぞれの委員の考え方もあるかと思いますが、一応今、長谷川委員の質疑に対して一応済んだ後でまた。いいですかそれで。

河野朋子委員 妥当性の部分をどのような、その辺の認識ですけど、本当にこの公立化が妥当性があるかどうかということをこの委員会としてしっかり調査していくんだという認識を皆で持ってもらいたいという、ちょっと本当、申し訳ないけど再確認です。

伊藤實委員長 今、河野委員が言われましたように、再確認。もちろんそれぞれ考え方はあるかと思いますが、しっかりとこの委員会でそれぞれの課題というか、いろいろとどうだろうかというような曖昧なことではいけないと思いますので、そういう面につきましては、それぞれの委員からここはどうなんだという明確な提案、意見も出していただきながら、そのことについてはしっかりと議論をして慎重に進め

ていきたいというふうに思いますんで、そういうような方向性でよろしいでしょうか。

山田伸幸委員 この委員会の設置目的ということでは、一致をしたんですけど、その名のおり、その目的どおりですね、調査検討ということをしかりとやった上で、結論を出していくということをしかり意思が、そこで皆さんがね、一致できるかどうかということなんですよね。議案としては成立しておりますけれども、やはり委員会がスタートするわけですから、そこをまず念入りに確認をしていくべきじゃないかなというふうに思います。

河野朋子委員 それからこれ当初は行政側からは9月の議会で定款を出すような予定だというような話があったんですけども、一般質問の中で6月にというような話もありましたが、それは行政側の都合ですが、これを慎重にやっていく中でスムーズにいけばそれが一番いいんですけど、例えばその辺りが十分まだ審査できてない状態で6月の議案提案時に、上程時にそういったことができないというような可能性もあるかもしれませんけれども、その辺りもある程度もうここがゴールとかスケジュールがこうなってるからということじゃなくて、やはりさっき言われたように慎重にしていくことを最優先していけば、そういう可能性もあるという、これも最確認ですけどよろしいでしょうか。

伊藤實委員長 今の件につきましては、私、委員長に選任された際にも申しましたように、先ほど河野委員から言われましたように代表質問では、推進と、これは個人的にはなくて、会派としてね、いいということは申しましたが、しかし今言われるように、もう間に合わないからするとかではなくて、本当にこれはどうなのかということは徹底的にですね、やっぱり調査をしながら、やっぱ全員がこれなら安心だよねという部分については、しかりとね、やはり議論を進め、そして執行部のほうにも速やかにその辺の情報提供もですね、求めながらできることであればどっちになれ全会一致になるような方向でいきたいと思いますんで、時間がないとかってというような理由では強行にするということは全く考えておりませんので、その辺は御理解をしていただきたいというふうに思います。それでは一応今、いろい

るるあると思いますが、今、長谷川委員の今、この意見、要望について先に進めたいと思います。

大井淳一郎委員 ちょっと今言われたことに付け加えることになろうと思いますが、この委員会のスタンスということを多分、皆さん一致しておかなきゃいけないと思います。この問題は段階があつてですね、まず公立化の妥当性という観点。もし公立化がなった後のね、場所だとかまちづくりとかそういった問題があろうかと思えます。ただ後者についてはあくまでも公立化が、その辺があつた後だから、得てですね、なつた後のですね、問題ばかり議論になりがちだけど、そこはむしろ押さえて公立化のゴーサイン出してもいいかどうかという委員会のスタンスでいくということは、それは皆さん共通でいきたいと私も思っております。

吉永美子委員 確認をさせていただくんですけど、だから公立化がいいかどうかという判断は、結局は定款又は中間計画、これが議案として出されたときに委員会として公立化妥当であるので、要は可決というか、採決をしたときに可決ですとなつた時点でこの委員会は目的を果たし、終わるということと違ってよろしいんでしょうか。

大井淳一郎委員 これについて細かい手続は私も聞いてはいません。6月ないし9月に定款、財産の譲受け等もありますよね。で、中間計画、その辺りが議案として上がってくると思われますけれども、それをやったら絶対解散しなきゃいけないかというのは、その辺はまだ即断はできないかなと。その時点でももちろん否決だったら、それはもう終わりですけれども。可決にもしなつた場合に、そのときに解散すべきかどうかというのは、改めてその時点で委員会で話し合うべきじゃないかなと思います。今日の時点では即断はできないかなと思います。

吉永美子委員 確認をしておきたいのは、設置の目的に公立化の妥当性とあるわけですから、可決をした時点で公立化は妥当性があつたということで、一旦いわゆるこの名前である公立化調査検討特別委員会の使命は終わるという認識を持つんですか、いかがですかね。

古川議会事務局長 基本的にはこの目的を見ますと、公立化の妥当性ということですが、今仮に執行部のほうは9月に定款と出資を議案として出しておりますが、これ高知工科大学なり、長岡造形大学のずっとの流れを見ますと、その後も吉永さんの言われましたような中期目標の議決とか重要な財産を定める条例、授業料、入学金の上限の設定等の議決も出てきておるようです。それをどこの委員会で審査するかということにもなろうと思いますので、基本的にはこの委員会でそこまでやるのが一番妥当性があって効率的ではないかというふうには事務局では考えますが。

山田伸幸委員 今の説明からすると開学というか何ていうんですかね。薬学部の設立か。そこまでということなんでしょうか。

古川議会事務局長 開学と薬学部の設立は違います。

大井淳一郎委員 私も議運の中で、全協の中で答えたと思うんですけども、開学というか公立化に、平成28年4月。これがマックス、来年ね。というふうに見てますね。あとはとにかく今、資料もないし、議案がどんなものが出てくるかまだ分からない状態で6月だ、9月だ、12月だと言えないと思いますので、ただその一方で目的もないのに、のんびんだらり委員会をするつもりも当然ありませんので、その辺は皆で協議しながら適切な解散時期を決めるべきではないかと思います。

伊藤實委員長 発足してすぐ解散時期というのもどうかと思います。はっきり言って。しかしながら今、それぞれの委員からありましたように、まずこの第一の目的は、この公立化が妥当かどうか、そこに集中して、まずは進める所存ですのでそれについてのそれぞれの委員からの不安材料とかが当然あると思いますので、そのことをしっかりと審議をした中で、議案がいつ出るか分かりません。遅くとも9月議会だと思いますが、それまでには早目早目にしっかりと準備というか、審査をですね、していかないといけないと思いますので、まずこの公立化の妥当性についてを第一目標に集中審議をしていきたいというふうに考えてます。そういう



方向でよろしいでしょうか。いいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）その後、今度この定款の議案がどうなるかによってはですね、今、事務局からあったようにいろいろとまた議案事項もあるということになればまた、その時点でまた考えるというふうなことで、まずはこの公立化が妥当かどうか、そのことについてしっかりと審議をするという方向性で進めたいと思いますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

石田清廉委員 公立化の妥当性というのをね、議会の立場で、今、行政が公立化を進めてる段階で議会としてそれをどうその妥当性を審査できるのかというのが一つよく分からない点なんですよ。公立化が妥当であるか否かっていうのは議会としてどう診断する。その辺がちょっとはつきり見えないというか、どのような議会として対応していくというふうに。

伊藤實委員長 これはですね、総務委員会のほうでもいろいろと20年間というかね、収支計画がありました。その中では9年までは大丈夫だと。そしてシミュレーションも9パターンを考えて示されたわけですが、実際にはその後はどうかというような不安をされる委員がおられるのは当然です。実際には今、今回昨日の入学式においても定員を多くね、上回ったというところはあるわけですが、それぞれやはり委員の中には本当に果たして大丈夫かというような不安があるというのが事実と思うんですよ。だから行政が進めて議案が出てどうですかではなくて、事前に議会としてはしっかりとその辺を分析調査をしてね、これであれば大丈夫であれば賛成になるでしょうし、もしこれはいけないということになれば反対ということにもなるかと思ひますので、そういう議論をこの委員会ですっきりとするということですよ。

石田清廉委員 ということはその妥当性を認めるということは、学校経営そのものが市の経営として成り立つのか成り立たないかということが、いわゆる経営ノウハウが判断できれば妥当性ということですか。どういう解釈をしたらいいんですか。

伊藤實委員長 そのことについてはね、今日は資料もないんで、ですからそういう部分

は先ほど長谷川委員のほうからも財政的にはどうかというようなもう質疑が出てるわけですよ。だからそういう部分についてもちゃんとした資料をね、再度総務で出してもらったものとまた別のものも用意してると思いますし、やはりそういうことの審議をするということですから。

石田清廉委員 言いたいのはね、このメンバーの中でも公立化ありきで進めていいのかという御意見を持っていらっしゃる方も事実いらっしゃるわけだから、議会がその行政が進めている公立化、これの妥当性を審議する前に、この足並みがそろってないんですよ。これ我々はこの特別委員会を建てたということは、公立化をどうしたらリスクを少なくして持っていけるかということを目的にして……。 (発言する者多数あり)

伊藤實委員長 いいやそれは違います。そこはね石田議員違いますよ。やはりねそれは違うと思います。やはりそれぞれ考えはあるかと思いますが、やはり議会というのはそれぞれの考えの中でね、もう大丈夫という人、いやどうかという人がおられるのが議会です。その中でお互いが調査をしながらどうだという議論を深めないといけないわけですから、もう公立化ありきというような進め方をする気もありませんし、決してしてはいけないと思うんですよ。だからそこにはちゃんとした情報提供をしながら双方の意見をやっぱりぶつけ合いながら議論をして最終的にどうなんだというふうにしないとですね、今石田委員が言われるようにもう公立化の何がどうなんとかか、そういう方向では行きません。(発言する者あり) 行きません。(発言する者あり) 当然ですよ。そうです。

河野朋子委員 それがちょっとやっぱり不安だったというのが、本会議であれだけ一致してるんだけど本当にどうなのかという具体的にここでスタートするときにはそれは皆で同じところに立ってスタートするべきじゃないかというのが、長谷川さんの最初の質問だったし、そこは皆で一致し、今みたいな意見が出るんだったらもう一回ちょっと協議しながら議論して、いやそうじゃないですよというのがあって、ああそうですねをやっぱり一回目はしてほしいという意味で少し丁寧にやってほしいという意味があったんですけど、まあそういう意見が出たからむしろ、いやそう

じゃなくてニュートラルで今からスタートするんだということをもう一回再確認できたのかと思いますけどね。

伊藤實委員長 それでは私のほうから再確認します。あくまでもニュートラルということでそれぞれ考えがあると思います。だから委員会はニュートラルでスタートしますが、それぞれ推進というか、やっぱり賛成と思う人はそれなりの意見をね、述べればいいし、いやこういうところが不安という人はそういうところもね、指摘をしてもらうとそこをやはりしっかりと議論をして議案が出された際にはね、本当にこの委員会として正確な判断ができるような委員会運営をしたいというふうに考えますんで、何度も言いますが、あくまでもニュートラルの中でスタートするということで確認をしますが、よろしいでしょうかそれで。いいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）それではそういうことでいきますよ。それと3点は今、設置についてですが、先ほど言いましたように長谷川委員のほうから将来にわたる財務状況、ここがどうかというところがもちろんございます。それぞれの委員の中にもその点についてはあると思いますんで、先ほど申しましたように負の遺産とならないように、将来の人口予測と入学者数の予測やね、そういう資料等につきましては執行部のほうにですね、この辺のシミュレーションなりしてると思いますんで。

長谷川知司委員 私が質問を出したのはメールで送らせていただいた。ですからできればこのことをですね、皆さんに配っていただきたい。伊藤委員長、今言われましてけれど、聞くのと何回も読めばですね、趣旨が分かると思うんですね。これはやっぱり皆さんに配っていただきたいなと思います。

伊藤實委員長 これ配って。

（資料配布）

伊藤實委員長 今、御要望がありましたように長谷川委員の、最初のほうは済みません、もう終わりましたんで、で、最初に出された将来にわたる財務状況等のことの質疑は2点ほど出されております。で、一応このことについてはですね、先ほ

ど言いましたように今からするのではなくて、いろいろそれぞれの今、執行部が予測している部分とかの資料請求もしながらですね、執行部の説明を求めるということも必要だというふうに思ってますんで、このことにつきましてはこの事項に関連する資料請求も含めてですね、説明をする日程をですね、調整をしていきたいというふうには考えてます。だから今日は具体的にはないんで、今これ以外に何か追加とかあれば。

山田伸幸委員 これ以前あって、市の財産を譲り受けた人がですね、その後にメンテナンス機能がものすごくかかって、取得費以上にかかったということを聞いたことがあるので、大学側の設備がですね、これが更新時期がいつなのかというのがですね、「耐用年数」と呼ぶ者あり)耐用年数ありますからね。その辺をやっぱりしっかりしておいていただかないと、あの試算表そのものがですね、ちょっと違ってくると思うんですよ。そういうことが分かっていないと。

伊藤實委員長 そういうデータね。

長谷川知司委員 今、山田委員が言われたとおり私も施設や設備の更新等を含むと。それはお願いします。

河野朋子委員 これまでの大学の経営が90億近く負債が20年間で出てきてますよね。トータルでは直接赤字にはなっていないと言われますけど、実質的にそれだけ赤字が出たわけですね。ということは単独である大学の経営がどういう状況であって、どの部分がそういったものを、定員が不足したということが一番大きいとは思いますが、その辺りの細かいやっぱり周知がある程度知りたいとは思いますが。これまでの経営状況の細かいところですね。それから薬学部に関して、これまでも再三そういった動きが過去あって、それが実現しなかったということがあって今回なったわけですが、なぜこれまでのこの間実現しなかったかその理由ですね。そこがすごく大事と思うんですよ。その辺りも明らかにすべきだと思います。

伊藤實委員長 ほかにありますか。

吉永美子委員 やはりこれからの要は山陽小野田市の発展のために、この山口東京理科大学が公立化された場合には、どこまで本当に貢献してくれるかというのは、大きな課題となってくると思うんですけど、施政方針の中に地方創生に関連して、この山口東京理科大学の公立化を大変重点に考えて、今後総合戦略等作っていかれるというのを感じておりまして、市としてその総合戦略における山口東京理科大学公立化のその位置付けですね、その辺りはどのようにまちづくりをしっかりと入れ込んでいただいで公立化を考えておられるのか、とつてもそれは知りたいと思いを強く持っております。

伊藤實委員長 今の件は総合計画も含めてということでしょうか。もう総合計画も今から作成するわけですから、もちろんこのことも入ってくると思いますので、はい、ほかに。

山田伸幸委員 できれば全国の公立大学ですね、これの簡単な収支でもいいんですけど、人口がどの程度の規模で、どういう大学があつて、どの程度の大学があつて、その収支がどうなっているかというのを、もし資料として取ればですね、欲しいなと思います。

伊藤實委員長 これは学部うんぬんとかでなくて、要するに国立ではなくて市立のその辺の財政状況等の資料がということですね。難しいとかいうことはここで判断することではないので。一応。ほかに資料請求も含め。

大井淳一郎委員 資料になじむかどうか分かりませんが、同じようにですね、純粹たる私立が公立化というのは、うちが初めてなんですけど、公設民営という形で今までありました。そうしたケースをやはり知る必要があると思うので、その辺の資料とかも確認したほうがいいかなと思います。

伊藤實委員長 ほかにありますか。

石田清廉委員 やはり先進地というかな。参考になる非常に興味の深い、そういう先進地を検索してね、それを見るべきだろうと、学ぶべきだろうと思います。

山田伸幸委員 先進地というのは、どういう状況を言われるのでしょうか。私立から公立になったところのことを言われるのか。

石田清廉委員 それはもちろんそうですよ。私立を公立法人化した具体例がある先進地という、限定。

大井淳一郎委員 先ほど言いましたように、それは今ないので、どうしても高知とかありますよね。幾つか。その辺りになろうかと思います。

伊藤實委員長 高知は工科大学。そのことはちょっと後ほど提案します。

山田伸幸委員 全国で一番小さい公立が、たしか北海道の余市だったと思うんですよ。人口3万ぐらいで、市立大学を持っているということなんで、その辺のところももし調べがつけばですね。(発言する者あり)ちょっと調べてないですけど。余市にある大学というふうに聞きました。

伊藤實委員長 東京理科大も北海道にあるとちょっと聞いたんやけど。北海道にもね。(発言する者あり)長万部に何かあるらしい。ほかにありますか。

河野朋子委員 現在の山口東京理科大学の就職状況というか、そのうち卒業生がどれだけこの地元就職しているとか、そういったデータですよ。現在の大学の。(「卒業生の就職動向」と呼ぶ者あり)地元生がどれぐらいいてとか、そういった細かいデータがやっぱり必要かなというふうには思います。やっぱり就職してもらわないと。

伊藤實委員長 いろいろと今、るる資料請求を含めてありましたんで、それにつきまして

は正副委員長そして事務局のほうで、執行部のほうへ早急にですね、出して、また資料がそろいましたら、その際にこのことについては協議をするということによろしいでしょうか。(「はい」と呼ぶ者あり)それとですね、今それぞれの課題なり資料も出していただいたんですが、先ほどから今、東京理科大の、河野委員からあったように、就職の状況とかね、それとどうして90億のというようなことがありました。これは実際、執行部というより、やはり現地に出向いて行ってね、やはりその辺はそういうような質問を出した中でね、説明を受けるということのほうが一番いいんじゃないかと思えますし、実際にはいろいろと今、工学部そして薬学部についてもどういうふうになるかという、執行部を通してからの声というよりは、実際大学側の方針なり、それとあとは姉妹校提携という部分も大きくね、本当にするのか、どのような体制なのかという部分も重要だと思いますんで、そのことについては、早いうちにですね、東京理科大のほうにですね、このような質疑も含めて現場の声ということで視察に行こうと思うんですが、その辺についてはどうでしょうか。

山田伸幸委員 それは本学に行ってくるということでしょうか、それともここで。山口で。

河野朋子委員 大学側と今のようなことをやり取りとなりますけど、大学側はそういうことに対して受け入れというか、そういうのはどういうふうに。ちょっと行政の質疑とまた変わってきますよね。(「ええ変わりますよ」と呼ぶ者あり)その辺はどうなるんでしょうか。ちょっとよく分からないので。どういうふうな形。受け入れてもらえるのかとか。その辺出してもらえるのかという。

大井淳一郎委員 過去に委員会活動の一環で民間の団体と意見交換はしたことがありますんで、相手のあることなんで、僕らが強制的にはできませんが、その合意の中で可能だと思います。それを委員会として議事録で残す、残さないも含めてね、その辺は相手と協議してやらなきゃ、微妙なところもありますから。

石田清廉委員 今、河野さんもおっしゃったけども、議会が今この時点でどの部分まで突っ込めるかというデリケートな部分があると思うんですよね。例えば東京理科

大と市が協定を成立させるまでの、事前にね、我々議会在東京理大に打診して、その経営状況を原因をどうこうということを可能なかどうかという、ちょっと心配があるんですけどね。(発言する者あり)

大井淳一郎委員 今議論してることは、ブレインストーミングなんで、今やるのが全て可能かどうかというのも、個人情報のこともあるし、相手のこともあってね、ただ可能なものについてはしっかり判断できるにはやるべきなんで、今、挙げてもらってる段階なんで。

伊藤實委員長 先ほど言いましたように、要はニュートラルなんです。それぞれの疑問があるわけでしょう。あつて90億はどうしてなったんだ。やっぱそういうところをしっかりと確認をしたいというところもあると思いますんで、これは相手があることですが、委員会としてはやはりそういうことも東京理科大のほうに申し出てね、やはりそこは説明を受けたいという要望はしたいと思います。それをしないと逆にどうかという部分もあると思いますんで、もう行政とは公立化に向けての協定は結んでいるわけですが、だからやっぱそういう部分については、しっかりと調査をするということが大前提だと思いますんで、できれば早い時期にね、やっぱりそういうことも含めてやはりその辺を払拭できるものは払拭するというところも必要だと思いますし、やはりそこは執行部から遠回しに聞くよりは、せつかくこの委員会としてね、やはり現地に出向いていろいろとその辺の意見交換というか、そういう部分を調査をしたいというふうに考えてますんで、先方の意向もあるかと思えますよ、いろいろとね。情報を出せないという部分もあるかと思えますが、できれば日程調整をして、向こうが受け入れてくれるならば早いうちに4月中にもですね、ちょっと急なんですけど、できることは一步一步もう進めていきたいという所存ですがよろしいでしょうか。(「はい」と呼ぶ者あり)それでは事務局のほうでいろいろとまた調整をし、そして今出された東京理科大への資料請求というか、こういうことを聞きたいという旨のことも伝えながら、向こうが答えられること、答えられないことはあるかと思えますが、その辺についての日程調整等はしていきたいというふうに思いますんで、よろしくお願ひしたいと思ひます。それとですね、もう一点、先ほど石田委員からありました全国の事例ということがございます。実は高知の工



科大のほうが全国で初めて公立化になったところです。今、4月からまた県立大が2つになるということでいろいろと状況が変わって、そちらのほうもですね、いろいろとちょっと事務局のほうでも先進地というか、実際にそういうふうにももちろん定款も作っていろいろされてますんで、やはりこのことも必要だというふうに思っています。そうした中でも一応事務局のほうでも先方のほうともですね、調整をさせていただいたんですが、実は今、統一地方選の関係で県立大ですから県議会です。ちょうど議会中なんです、何とか向こうも調整をできそうな日程等もあったということで、その辺の詳細についてちょっと事務局のほうから説明をお願いします。

田尾議会事務局主査兼議事係長 それでは高知工科大学についてですが、御存じとは思いますが、2009年に公立大学法人化によって公立大学へ移行した最初の学校でございます。成長戦略室が総務委員会で説明したときに総務省の方から、この高知工科大学が風穴を開けたというような表現をされた大学でありますので、公立大学に移行した際にはかなり難しい課題をクリアして公立化された大学ですので、ここに行ってお話を聞くというのは、かなり参考になるのではないかと考えております。それとうちの山口東京理科大学と似ているのが、単科の工科大学である、工学部であるといったことが同じでありまして、それが公立化されることによって定員がどうなったのか、その後もちろんさつき河野委員が言われたように就職先がどうなったのか、そういったことも参考になるのではないかと思います。ちなみに公立化になることによりまして、母体が県でありますので、高知県は、高知県立大学とこの高知工科大学の2つを抱えておりまして、実はこの4月1日に母体の公立大学法人が一緒になったということでございます。2つ大学があるんですけど母体は一緒ということで、さらにこの高知工科大学は、高知市内に新しくマネジメント学部というのを作りまして、新しいキャンパスを開いております、さらに学部を広げておられるということでございます。議会の審査、これの参考になるために私たちがもし視察に行くならば、向こうの県議会もしくは県の執行ですよ、そちらのほうにどのような質疑があつてどのような回答があつた、そういったことをぜひ聞きたいということ、もちろん分かりたいと思うので、その辺もお願いしたところ、向こうのほうからの回答がですね、視察そのもの

はですね、今統一地方選挙で、その後に臨時会が開かれますので、県のほうではちょっと無理だといったような回答だったんですが、何とかお願いしたら、高知工科大学のほうで、県の大学支援課の課長さんが行かれて、大学の先ほど言った聞きたいことも回答してもらえし、議会がどういった質問をして執行がどう答えたということもお答えいただけるといったような配慮をいただきましたので、ただ日程のほうがですね、向こうのほうにお願いして、5月18日の午後3時。というのが私どものほうも5月臨時会があるという事情がありまして日程が非常に限られております。そういった中で調整しておったところ5月18日、19日の一泊二日で行けるんでしたら、対応ができますと。18日午後3時からお話を聞いて質疑をすると。場所は高知工科大学。これ実を言いますと、単科の工科大学は香美市という、高知市とはちょっと外れたところにあるんですね。昔の土佐山田町といったところにあるんですけども、新しくできたマネジメント学部は高知市内にできておりまして、新しくできたこの学部のキャンパスの中で、もし視察をするなら受け入れていいですよというようなお話がありました。ですから行き先は高知市内の新しいキャンパスの中で質疑としては全てのことを対応していただけるといったようなことをございます。以上です。

伊藤實委員長 それでは今、事務局のほうから高知工科大学について、視察についての受け入れ状況等も含め説明がありましたが、何か御意見ありますか。

河野朋子委員 これ行政は行ってないんですね。全然。行ったんですか。

田尾議会事務局主査兼議事係長 総務委員会の中の成長戦略室のお話では市長と成長戦略室長は、長岡造形大学に視察に行ったということでございますので、同じところに行ってもということで、うちとしては高知を見るのがいいのかなというふうに思っております。

伊藤實委員長 何か御意見ございますか。（「なし」と呼ぶ者あり）よろしいですか。それでは今、事務局のほうで調整し、先方のほうもね、すごく何ていうか、対応もそこまでやっていただいているので、しっかりとその辺も含め、まず先ほど言いました東

京理科大の現地、そして全国で初めてやったこの高知工科大学に行っ  
てですね、しっかりとその辺を勉強と言いますか、研修しながら議案が出された際にはしっかりと審査ができる体制づくりをしたいと思  
いますので、日程が5月18日、19日、月、火ということで、その前民福が視察とか、そして20日からもう臨時会  
ということで、日程はすごくきついわけですが、その予定で行きたいと思  
いますのでよろしいですか、それで。（「はい」と呼ぶ者あり）一応高知のほうはそういう  
日程でまたその辺のスケジュール等につきましては、また詳細が分かりましたら  
それぞれお送りしますので、18、19日を空けておいてください。それと東京理  
科大についてはこれも先ほどの質疑も含めて現地と事務局で調整をします  
ので、これもちょっと急に決まるということにもなるかと思  
います。これも連休までにでき  
れば行きたいなと思  
ってるんで、4月中に、地元なんでね、午前か午後かど  
つちか  
か  
でということ  
でしたいというふう  
に思  
います  
んで、それ  
までにそれぞれの  
今の視察先  
について、この  
ことをもっと聞  
いてみたいとか、  
それがあれば、  
質問事項が  
あれば事務局  
のほうへ出  
して  
お  
い  
て  
い  
た  
だ  
き  
た  
い  
と  
い  
う  
ふう  
に  
思  
い  
ま  
す  
。それ  
で  
は  
一  
応  
今  
、  
視  
察  
の  
件  
に  
つ  
き  
ま  
し  
て  
は  
そ  
の  
よ  
う  
に  
す  
る  
と  
い  
う  
こ  
と  
で  
い  
た  
し  
ま  
す  
。それ  
と  
先  
ほ  
ど  
言  
い  
ま  
し  
た  
よ  
う  
に  
執  
行  
部  
の  
ほう  
に  
は  
先  
ほ  
ど  
の  
資  
料  
の  
要  
望  
を  
し  
ま  
す  
。そ  
し  
て  
そ  
の  
辺  
が  
そ  
ろ  
い  
ま  
し  
た  
ら  
で  
き  
れ  
ば  
視  
察  
の  
前  
と  
い  
う  
か  
、本  
来  
な  
ら  
東  
京  
理  
科  
大  
の  
前  
に  
で  
も  
ね  
、そ  
の  
辺  
の  
委  
員  
会  
な  
り  
で  
そ  
の  
辺  
の  
説  
明  
を  
受  
け  
た  
い  
と  
い  
う  
ふう  
に  
思  
い  
ま  
す  
。それ  
と  
こ  
の  
議  
案  
が  
出  
る  
の  
は  
遅  
く  
と  
も  
9  
月  
と  
い  
う  
よ  
う  
な  
こ  
と  
で  
し  
ょう  
け  
ど  
、大  
ま  
か  
な  
ス  
ケ  
ジ  
ュ  
ー  
ル  
な  
り  
が  
あ  
れ  
ば  
そ  
の  
辺  
も  
提  
出  
が  
で  
き  
る  
も  
の  
な  
ら  
出  
し  
て  
い  
た  
だ  
こ  
う  
と  
、そ  
の  
日  
程  
に  
よ  
っ  
て  
ね  
、い  
ろ  
い  
ろ  
と  
調  
査  
を  
す  
る  
事  
項  
等  
も  
そ  
れ  
ぞ  
れ  
が  
考  
え  
ら  
れ  
て  
る  
と  
思  
い  
ま  
す  
んで、こ  
う  
い  
う  
日  
程  
で  
も  
う  
遅  
い  
よ  
と  
い  
う  
よ  
う  
な  
こ  
と  
に  
な  
ら  
な  
い  
よ  
う  
に  
し  
た  
い  
と  
思  
い  
ま  
す  
んで、そ  
の  
辺  
の  
資  
料  
に  
つ  
い  
て  
も  
今  
執  
行  
部  
の  
ほう  
で  
考  
え  
て  
い  
る  
工  
程  
と  
言  
い  
ま  
す  
か、そ  
の  
辺  
に  
つ  
い  
て  
も  
資  
料  
請  
求  
を  
し  
た  
い  
と  
い  
う  
ふう  
に  
考  
え  
て  
い  
ま  
す  
ので、  
そ  
の  
資  
料  
を  
見  
な  
が  
ら  
ま  
た  
そ  
れ  
ぞ  
れ  
の  
委  
員  
の  
中  
で  
こ  
う  
い  
う  
こ  
と  
は  
ど  
う  
か  
と  
い  
う  
こ  
と  
が  
当  
然  
出  
て  
く  
る  
と  
思  
い  
ま  
す  
んで  
よ  
ろ  
し  
く  
お  
願  
い  
し  
た  
い  
と  
思  
い  
ま  
す  
。ほ  
か  
に  
何  
か  
ご  
ざ  
い  
ま  
す  
か。

中村博行委員 この委員会が始まった当初、やはり委員長御自身がですね、代表質  
問で推進派の形で皆さんに受け取られて当初、聞いたらむしろ反対ぎみの意

見というふうな質問等があったというふうには私感じたんですけども、いずれにしても行政のほうは9月であったものが6月にというような話が出てきている以上、結局行政がどんどんどんどんこう進めている。そして今統一見解で時間がないからとかということは避けたいというふうにおっしゃったんですが、ちょっと矛盾するかもしれませんけども、やはり委員会としても十分なスピード感を持ってですね、やっていくことが大事かと思えます。それにはもちろんある意味ですね、怖い部分も含んでると思うんですよ。結局せつかくこういう良くも悪くもチャンスであるかもしれません。その中で結局締結の中に失効という部分がありますよね。御破産になるということは避けたいといけないと思えますので、その辺十分含んでですね、スピード感を持っていけたらというふうに委員長の采配を御期待します。

伊藤實委員長 ほかに。

笹木慶之副委員長 私のは確認を含めてね、あれなんですけど、まず2月13日にこの総務文教常任委員会が開かれました。このときの状況というのは委員の皆さん一応理解しておられるわけですね。皆いつてるんですね。だから審議をするに当たっては、一応この時点まではあるということをお互い認識すべきだというふうに思います。それから2点目はですね、これ2月13日以降に動いてる問題があるかもしれないわけですね。ですからもちろん委員長とも話をしましたが、やっぱり東京理大に行く前に執行部のほうからですね、その辺りを的確に確認をした上で、だからもう1点はさっきもありましたが、タイムスケジュール、これきちっと出してもらわないとやっぱり審議のしようがというふうに思います。だからこれ良い悪いは別として執行部としてどう考えているかという部分がね、その辺のところを見ながらやっぱり対応していくべきだと思います。以上よろしくお願ひします。

伊藤實委員長 ほかに。「なし」と呼ぶ者あり)なければ本日の委員会を閉会いたします。またこの委員会先ほど申しましたように、スピード感も持ちたいと思えますが、執行部のほうの資料等そして先方の都合により急きょということもあり得るかなと思えますので、その辺につきましては何とぞ時間を割いていただきたいというふ

うに思います。それでは本日は閉会いたします。お疲れさまでした。

---

午後4時57分閉会

---

平成27年(2015年)4月9日

山口東京理科大学公立化調査検討特別委員長 伊藤 實